

# 講評文

12月27日 1番目

四日市西高校

## 「虹と意地のバンバラバン」

町内会の祭りの為にご当地ヒーロー、マコモダケンジャー作りに励む漫研の緩くてありふれた日常と学校に姿を見せなくなってしまったクララを巡る彼らの絆のお話でした。

冒頭の七色の光とキャッチーな音楽の中、ポーズを取りながら部員たちが登場するシーンのインパクトは、目を見張るものであり、とても引き付けられました。またしっかり者のシヅキやお調子者の先輩たちなど、戦隊モノのヒーローみたいに登場人物の個性が際立っていて、特にカジの、弁が立ちどこか憎めないうざったい性格が面白かったです。全体的に会話に間を持たせることで笑いに繋げていて、会話の緩急がとても上手だなと思いました。

そして大道具の門がとても工夫されていると思いました。漫研だから漫画のコマ割りのような形で、またそのコマの一部に照明を当てることでクララの家インターホンに向かっていくかのように演出出来るところに感心しました。そして一人ひとりの机がハの字型になっていることで机が被らず、真ん中に空間が出来る上、奥行きを持たせている点も見事だと思いました。

私が特に好きなのは、最後にクララが拍手する場面で、そこでは拍手の音だけでクララの姿は見えませんでした。それはトランスジェンダーとしての悩みを持つクララだからこそ、容姿を観客に印象付けない為だと感じました。そして、マコモダケンジャーのジャージの上下の色がバラバラで、緑だと漫研のみんなに言われていたユーマが赤で、女の子はピンクというイメージがある中、シヅキの色が緑だったりしたのは、クララが着たいと言った虹色のジャージを表現するとともに、どんな色にも捉われなくていいというメッセージのように感じました。絶妙にダサイマコモダケンジャー、そして自由で緩くてくだらないことで大騒ぎする漫研だからこそ教室などにいる自分が想像できないと言ったクララの学校の中の唯一の居場所だったのだろうと思い、切なくも温かい気持ちになりました。

マコモダケンジャー作りに取り組む漫研にたくさん笑わせてもらいながらも自分の居場所について考えさせられる劇でした。お疲れ様でした。